

第五章



高精細X線CT装置(管電圧 100kV 最小分解能 1.5 μ m)
(公益財団法人 JKA 平成 25 年度機械工業振興補助事業)

元号 (西暦)	千葉県非破壊研究会 の出来事	JSNDI を中心とした NDT 業界の出来事	社会の出来事
S27 (1952年)		<ul style="list-style-type: none"> ・日本溶接協会内に「非破壊検査法研究会」が発足 ・機関誌「非破壊検査」第1巻1号が刊行 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンフランシスコ講和条約発効
S28 (1953年)		<ul style="list-style-type: none"> ・超音波探傷用感度標準試験片「学振Ⅰ型」が頒布開始 	NHK テレビ放送開始
S29 (1954年)		<ul style="list-style-type: none"> ・NDT 関連の最初の JIS 規格「JIS W 4031 航空発動機用部品の磁気粉末検査」が制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5福竜丸ビキニで被曝 ・青函連絡船「洞爺丸」事故
S30 (1955年)		<ul style="list-style-type: none"> ・(社)日本非破壊検査協会が設立 ・日本原子力研究所設立 ・JIS Z 2341「金属材料の放射線透過試験方法」制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が GATT(貿易と関税に関する一般協定)に加盟
S31 (1956年)		<ul style="list-style-type: none"> ・NDI 関西支部発足 ・金属材料技術研究所設立 ・超音波探傷用感度標準試験片「学振Ⅱ型」が頒布開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が国際連盟に加盟
S32 (1957年)		<ul style="list-style-type: none"> ・NDI で超音波探傷試験, 磁気・浸透探傷試験, ひずみの講習会が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際原子力機関(IAEA)が発足 ・東海村の原子炉に点火 ・ソ連が人工衛星打ち上げ
S33 (1958年)		<ul style="list-style-type: none"> ・JIS Z 2344(金属材料のパルス反射法による超音波探傷試験方法通則)制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京タワーが完成
S34 (1959年)		<ul style="list-style-type: none"> ・産報出版から「検査機器ニュース」発刊 	<ul style="list-style-type: none"> ・皇太子ご成婚 ・伊勢湾台風
S35 (1960年)		<ul style="list-style-type: none"> ・四国地方非破壊検査研究会発足 ・JISG0565「鉄鋼材料の磁粉探傷試験」制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・日米新安保条約発効 ・ローマ五輪
S36 (1961年)		<ul style="list-style-type: none"> ・原子力関係の非破壊検査(001)委員会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回東京国際見本市 ・ソ連有人宇宙船打上げ
S37 (1962年)		<ul style="list-style-type: none"> ・学振超音波探傷用感度標準試験片「学振Ⅲ型」(現在の STB-G)頒布開始 ・超音波レール探傷車完成 ・高圧ガス保安協会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・国産旅客機 YS-11 初飛行

S38 (1963年)		<ul style="list-style-type: none"> ・船舶技術研究所開所 ・ASNT(米国 NDT 協会)認定制度の公表 	
S39 (1964年)		<ul style="list-style-type: none"> ・NDI 中部支部発足 ・磁粉探傷用標準試験片頒布開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪開催 ・東海道新幹線開通
S40 (1965年)		<ul style="list-style-type: none"> ・超音波斜角探傷用の STB 頒布開始 ・X線作業主任者試験実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・米軍北爆(ベトナム)開始
S41 (1966年)		<ul style="list-style-type: none"> ・欠陥材評価(003)特別研究委員会の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国, 文化大革命
S42 (1967年)		<ul style="list-style-type: none"> ・JSNDI 編, 非破壊検査便覧出版 	<ul style="list-style-type: none"> ・公害対策基本法成立
S43 (1968年)		<ul style="list-style-type: none"> ・非破壊検査技術者技量認定規程制定 ・全国非破壊検査業組合発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 GNP 世界第 2 位
S44 (1969年)		<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回非破壊検査2級技術者技量認定試験実施 ・JSNDI で技量認定試験用の講習会開催が本格化 ・非破壊検査技術者用テキスト類の刊行 ・溶接部の超音波探傷検査が建築現場で採用される 	<ul style="list-style-type: none"> ・東名道路全線開通 ・日本初の原子力船「むつ」進水 ・アポロ 11 号月面着陸
S45 (1970年)		<ul style="list-style-type: none"> ・発電用熱機関協会発足 ・日本溶接協会 CIW 主任技術者試験実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪で日本万博会開催 ・八幡と富士が合併し, 新日本製鐵が誕生
S46 (1971年)		<ul style="list-style-type: none"> ・三井造船千葉造船所内で検査会社がイリジウム紛失 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドルショック
S47 (1972年)		<ul style="list-style-type: none"> ・NDI 特級技術者技量認定試験実施 ・非破壊検査振興協会設立 ・保守検査(004)特別研究委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌冬季五輪開催 ・沖縄本土復帰
S48 (1973年)		<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会規準「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」発行 ・九州地方非破壊検査研究会発足 ・NDI 各部門の技量認定試験「秋期合同試験」が実施 ・全国鐵構工業連合会設立 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国・北ベトナム和平協定調印 ・円, 変動相場制へ ・第一次オイルショック

S49 (1974年)		<ul style="list-style-type: none"> ・中国地方非破壊検査技術振興会発足 ・消防庁「屋外貯蔵所の保安点検基準」示達 	<ul style="list-style-type: none"> ・物不足, 買い溜め騒動 ・原子力船「むつ」放射能漏れ ・三菱石油水島精油所で重油流出事故
S50 (1975年)		<ul style="list-style-type: none"> ・JIS Z 3060「鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び試験結果の等級分類方法」制定 ・NDI 石井賞規則制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄海洋博開催 ・第1回先進国首脳会議(6ヶ国サミット)スタート
S51 (1976年)		<ul style="list-style-type: none"> ・汎太平洋非破壊試験会議(PPCNDT)設立総会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッキード事件
S52 (1977年)		<ul style="list-style-type: none"> ・NDIS 0601 の技量認定規則に3級の資格が追加された ・石油貯蔵タンク技術基準強化のための政令, 省令が発令 ・秋田県非破壊検査技術研究会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤軍 日航機ダッカハイジャック事件が発生
S53 (1978年)		<ul style="list-style-type: none"> ・JIS Z 3050「パイプライン溶接部の非破壊検査方法」制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・成田新東京国際空港開港 ・高層ビル「サンシャイン60」完成
S54 (1979年)		<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨問題協議会発足 ・北海道機械工業会検査部会発足 ・中国「無損検測学会」発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・スリーマイル島原発事故
S55 (1980年)	<ul style="list-style-type: none"> ・川向こうの会(千葉非破壊研究会)発足のため, 白井, 岸上, 藤盛の3氏による打合せが行われた 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線障害防止法改正 ・NDI の標準化部会が標準化委員会へ名称変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本自動車生産台数世界一位になる
S56 (1981年)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月26日, 日本大学生産工学部に於いて, 川向こうの会の発会式挙行 ・会長:石橋泰雄, 事務局を千葉県機械金属試験場に置き, 白井事務局長の体制でスタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨建設業協会設立 ・アコースティック・エミッション(006)特別研究委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次臨調成立 ・2000m級潜水調査船「しんかい2000」完成 ・日米貿易摩擦激化
S57 (1982年)	<ul style="list-style-type: none"> ・1月23日, 日本大学生産工学部に於いて第2回総会と懇親会を開催 ・RT, UT, MT, PT などの講習会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・JSNDI 創立30周年記念式典開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・日航機羽田沖で逆噴射 ・東北, 上越新幹線開業
S58 (1983年)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋に特別幹事会が開催され, 千葉県に認知された研究会としての規約改正や千葉県非破壊検査研究会への名称変更などが話し合われた 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国鐵構工業連合会で鉄骨超音波技術者の認定がスタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・三宅島噴火 ・ソ連 大韓航空機撃墜

S59 (1984年)	<ul style="list-style-type: none"> ・2月4日に第3回総会が開催され、正式に機械金属試験場に事務局を置く千葉県非破壊検査研究会がスタート ・千葉工大丹羽登先生が副会長に就任 ・第1回研究発表会で7件の発表 ・特別講演に丹羽登先生がご講演 	<ul style="list-style-type: none"> ・JIS W 0905「航空宇宙用非破壊検査員の技量認定基準」制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリコ・森永事件発生 ・日本の平均寿命男女ともに世界一 ・マハラジャ麻布十番オープン, 世はバブルへ
S60 (1985年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回総会にて丹羽登先生が第二代会長に就任 ・立川事務局入り 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電用熱機関協会が発電設備技術検査協会へ改称 ・東北非破壊検査協会発足 ・浸透探傷試験片の頒布開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・本四架橋大鳴門大橋開通 ・日航機 御巣鷹山に墜落 ・科学万博(つくば)開催
S61 (1986年)	<ul style="list-style-type: none"> 会長:丹羽登, 副会長:成毛幸雄 ・副会長は機械金属試験場長の充て職とする ・事務局に書記担当者をおく 	<ul style="list-style-type: none"> ・新素材の非破壊評価(007)特別研究委員会設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国スペースシャトル「チャレンジャー」爆発 ・ソ連チェルノブイリ原発事故 ・伊豆大島三原山噴火
S62 (1987年)	<ul style="list-style-type: none"> 会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平 ・全構連鉄骨超音波 UT 技術者講習会開催 ・藤盛紀明氏渡米 	<ul style="list-style-type: none"> ・ASNT 日本で第1回 ASNT レベルⅢ技量認定試験実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO 9000 発効 ・国鉄解体 JR7社発足
S63 (1988年)	<ul style="list-style-type: none"> 会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平 ・超音波関連規格の講習会開催 JIS Z 2344, JIS Z 2355, JIS Z 3060 研究会主催の超音波講習会が始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・NDI で端部エコー実技講習会開催 ・NDIS 0601 の国際整合化対応で, 資格呼称を級→種に, 有効期限を9年→6年に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・青函トンネル開通 ・千葉都市モノレール開業 ・JR 京葉線新木場-西船橋間開業 ・瀬戸大橋開通
S64-H1 (1989年)	<ul style="list-style-type: none"> 会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平 ・副会長案で, 研究発表会を事例発表会に名称変更する ・NDI 中部支部との交流事業が始まる ・歴史民俗博物館, 田口教授の講演と歴博の見学会 ・MT,PT 講習会は栄進化学主催, 研究会後援の体制がスタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験(009)特別研究委員会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和天皇崩御 ・消費税3%実施 ・NHK 衛星テレビ放送開始 ・北京で天安門事件
H2 (1990年)	<ul style="list-style-type: none"> 会長:丹羽登, 副会長:宮田宗平 ・創立10周年記念行事と祝賀会の開催, 記念誌の発行 ・協同組合千葉県鉄骨工業会との連 	<ul style="list-style-type: none"> ・JSNDI 非破壊試験用語辞典が出版 ・JSNDI 会長の任期が2年となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・バブル崩壊が始まる ・東西ドイツが統一 ・雲仙普賢岳噴火

	携で、超音波関連の講習会が盛んとなる		
H3 (1991年)	会長:丹羽登, 副会長:砂金國男 ・東京都で不良鉄骨が問題となり、千代田区役所の加藤哲夫構造係長を講師に招き、勉強会を開催	・溶接検査事業者懇談会が CIW 認定事業者協議会へ改称 ・東関東非破壊検査懇談会発足 ・韓国内に於いて、NDIS 0601 による資格試験が実施される	・湾岸戦争(多国籍軍対イラク) ・バブル崩壊 ・計量法改正, 国際単位(SI)化 ・ソ連消滅
H4 (1992年)	会長:丹羽登, 副会長:武藤明義 ・木村新一郎幹事のご尽力で、新日鉄技術本部の会場をお借りして総会を開催初代会長の日本大学生産工学部教授石橋泰雄氏が逝去され、同大学の星川洋教授から「石橋先生を偲ぶ」と題した講演を戴く	・NDI に支部及び地域研究会連絡会が設置される ・ISO 9712(非破壊試験-技術者の資格認証)制定	・東海道新幹線「のぞみ」運行開始 ・山形新幹線開業
H5 (1993年)	会長:丹羽登, 副会長:武藤明義 ・航空宇宙技術研究所の松嶋正道幹事ご尽力で、同研究所調布分室にて総会と見学会を開催	・NDIS J001:93(ISO 9712 翻訳版)制定 ・日本品質システム審査登録認定協会(JAB)発足	・日本プロサッカー, J リーグ始まる ・欧州共同体(EC)スタート
H6 (1994年)	会長:丹羽登, 副会長:高田喜正 ・ISO の認証が話題となり、日本検査コンサルタント(株)の寺田邦男氏に ISO 9000 番についての特別講演を開催 ・研究発表会では、デジタル探傷器や自動超音波探傷器の発表が盛んとなる	・NDI 超音波分科会オープンシンポジウム開催 ・NDI の事務所秋葉原に移転 ・IAEA 委託ラウンドロビンテスト実施	・高速増殖炉「もんじゅ」臨界 ・製造物責任(PL 法)成立 ・関西新空港開港
H7 (1995年)	会長:丹羽登, 副会長:高田喜正 ・阪神淡路大震災で建築鉄骨の問題点が明るみとなった。千葉工業大学建築工学科教授羽倉弘人氏に「阪神大震災と鉄骨構造物」と題した特別講演を戴く	・JIS Z 3104(鋼溶接継手放射線透過試験方法)改正 ・長崎県非破壊検査技術研究会発足	・阪神淡路大震災発生 ・地下鉄サリン事件発生 ・「もんじゅ」ナトリウム漏洩事故発生
H8 (1996年)	会長:丹羽登, 副会長:今関重義 ・丹羽会長の特別講演「千葉と超音波との 50 年」ご講演の内容は本ホームページで別載しました ・CNDI が協力した JSNDI の「裏当て金付完全溶込みT継手のルート部からのエコー判別に関する指針」	・神奈川県非破壊試験技術交流会発足	・病原性大腸菌 O-157 による食中毒発生 ・東京ビッグサイト開場

	1995 改正版が研究発表会で報告された		
H9 (1997年)	<p>会長:丹羽登, 副会長:今関重義</p> <p>・新しい JSNDI の認証制度について, JSNDI の委員を務めておられる当研究会会員の福原熙明氏が解説した</p> <p>・非破壊検査技術者認証の国際整合化について, 岸上守孝氏による特別講演が行われた</p>	<p>・NDI ホームページ開設</p> <p>・NDI 支部規則が改正される</p> <p>・MT・PT 機器製造者協議会発足</p>	<p>・動燃再処理工場で爆発事故発生</p> <p>・秋田新幹線, 長野新幹線開業</p> <p>・東京湾アクアライン開通</p> <p>・消費税 5%にアップ</p> <p>・京都議定書採択</p>
H10 (1998年)	<p>会長:星川洋, 副会長:今関重義</p> <p>・丹羽登先生が会長職を勇退され, 第三代会長に日本大学生産工学部教授, 星川洋先生が就任</p> <p>・特別講演で JFE テクノリサーチ中野昭三郎氏による超大型浮体式構造物(メガフロート)についての特別講演を開催。この構造物の一部は, 後の福島原発事故で廃液の一時貯槽として使用された</p> <p>・川崎製鉄(株)千葉製鉄所の熱延設備を見学</p>	<p>・AWA 認証機構設立(建築鉄骨溶接検査関連の認証機構)</p>	<p>・冬季五輪長野大会開催</p> <p>・郵便番号7桁化</p> <p>・明石海峡大橋開通</p> <p>・米英軍イラク空爆</p>
H11 (1999年)	<p>会長:星川洋, 副会長:風戸裕侑</p> <p>・藤盛紀明清水建設(株)研究所長のご尽力で, 同研究所において総会及び研究施設の見学会を実施。藤盛氏の研究所長就任を祝う</p> <p>・超音波フェーズドアレイシステムについて R/D Tech Japan のドミニク・ブラコニエ氏による発表</p>	<p>・NDIS J001 資格者の NDIS 0601 への移行規則制定</p> <p>・検査機器ニュース, 創刊 40 周年</p> <p>・日本溶接協会, JAB 認定取得</p> <p>・ISO 9712:99 改正</p>	<p>・新幹線コンクリート剥離事故多発</p> <p>・東海村の核燃料工場で臨界事故発生</p>
H12 (2000年)	<p>会長:星川洋, 副会長:鈴木義衛</p> <p>・国立歴史民俗博物館副館長白石太一郎氏による「エックス線が見つけた鉄剣銘文が語るもの」と題して, 古墳から出土した鉄剣に纏わるご講演を戴く</p> <p>・フリーディスカッション「NDI認証・認定問題を考える」が行われた</p>	<p>・NDIS 0601 改正(極間法磁粉探傷検査及び溶剤除去性浸透探傷検査の 2 種資格新設)</p>	<p>・三宅島噴火</p> <p>・2000 年問題が危惧された</p> <p>・2 千円札の発行</p>
H13 (2001年)	<p>会長:白井越朗, 副会長:齋藤博之</p> <p>・星川会長が会長職を勇退され, 白</p>	<p>・JIS Z 2305(非破壊試験-技術者の資格及び認証)制定</p>	<p>・省庁再編</p> <p>・独立行政法人誕生</p>

	井越朗氏が第四代会長に就任・研究会創立 20 周年記念行事を鴨川市ホテル海光苑にて開催 ・創立 20 周年記念誌の発行 ・東北大学教授三原毅助氏による TOFD 法に関する特別講演&装置の展示	・浸透探傷試験関連 JIS 規格4件制定 ・非破壊検査振興協会が「日本非破壊検査工業会」へ改称	・アメリカで 9.11 同時多発テロ発生
H14 (2002 年)	会長:白井越朗, 副会長:齋藤博之 ・建築鉄骨製造現場で話題となった入熱・パス間温度管理問題について, パネルディスカッションを開催 ・神奈川 NDT 技術交流会との共催による自動探傷技術講習会及び JSNDI の認証に関する講習会を開催し, 両研究会の交流が盛んとなる	・日本圧接協会が要員認証機関として JAB 認定取得	・欧州単一通貨「ユーロ」が流通開始 ・住民基本台帳ネットワークがスタート ・小柴昌俊氏, 田中耕一氏ノーベル賞を受賞
H15 (2003 年)	会長:白井越朗, 副会長:今関重義 ・原子力設備と非破壊検査の将来性(東電問題等と今後の検査の方向性)東京工業大学教授小林英男氏(NDI会長)の特別講演 ・事務局の千葉県機械金属試験場が千葉県産業支援技術研究所に組織変更	・日本 LP ガスプラント協会と非破壊検査技術者の相互認定協定に関する協定書及び覚書締結 ・認定広報誌「インスパート」を廃止し, 機関誌巻末に「NDT フラッシュ」を掲載	・スペースシャトル「コロンビア」大気圏突入事故 ・小惑星探査機「はやぶさ」打ち上げ ・アメリカ・イラク戦争 ・六本木ヒルズオープン ・地上デジタル放送開始
H16 (2004 年)	会長:白井越朗, 副会長:今関重義 ・千葉県非破壊検査研究会, 神奈川県非破壊試験技術交流会との合同研究発表会を君津にて開催 ・研究会ホームページの開設 http://www.cndi.jp/	・非破壊検査総合管理技術者の諸規則制定 ・JIS Z 2305 の移行試験・再認証試験が始まる ・「支部規則」及び「支部の設置と運営に関する規則」制定	・養鶏場で鳥インフルエンザ発生 ・美浜原発で蒸気漏れ事故 ・新潟県中越地震発生
H17 (2005 年)	会長:白井越朗, 副会長:木島栄 ・国立歴史民俗博物館歴史研究系助教授高橋一樹氏による非破壊分析と古文書の「真偽」の特別講演 ・TOFD 共同研究スタート ・千葉・神奈川研究会の合同研究発表会が大田区産業プラザで開催。JAL 羽田整備場の見学会	・東北支部及び九州支部が設立 ・インターネット上で書籍・試験片の受注開始 ・PD 認証運営委員会発足させ, PD 認証機関立ち上げ ・ビデオ「非破壊検査入門」を DVD 化する	・JR 福知山線脱線事故 ・耐震強度偽装問題が発覚
H18 (2006 年)	会長:岸上守孝, 副会長:木島栄 ・丹羽登 元会長逝去木村勝美氏に	・PED(欧州圧力容器指令)NDT 認証制度を立ち上げ, 第1回 PED サ	・第1回 WBC で王監督の日本が優勝

	<p>よる追悼講演が行われた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連団体との意見交換会平成 18 年 11 月 6 日協同組合千葉県鐵骨工業会との意見交換会 <p>出席者鐵骨工業会 古橋久 会長 武藤明義 事務局長</p> <p>千葉県非破壊検査研究会 岸上守孝 会長 藤盛紀明 顧問 立川克美 事務局長</p>	<p>プリメント試験を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PD 資格試験を実施, PD 技術者 3 名を認証・超音波分科会, セミオープン化実施 ・JSNDI 仕様デジタル探傷器導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市職員の飲酒運転死亡事故発生 ・秋篠宮紀子さま「悠仁(ひさひと)」さまをご出産
H19 (2007 年)	<p>会長:岸上守孝, 副会長:山本修一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エキスポランド事故より, 「最近の金属疲労の事故について」と題し, 非破壊試験との関連について横浜国立大学教授小林英男氏の特別講演を開催 ・資格取得者を対象としたスキルアップ講習会の開催を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本非破壊検査工業会及び CIW 検査事業者協議会との合同懇談会開催 ・アジア諸国との非破壊試験に関するワークショップを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・エキスポランドのジェットコースター車軸破損事故発生 ・マリナーズのイチロー氏日本人初の MVP ・食品関係の偽装問題が発覚 ・郵政民営化スタート
H20 (2008 年)	<p>会長:岸上守孝, 副会長:三戸茂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超音波探傷の日本建築学会規準が改正され, 倉持貢氏(元 清水建設(株))による講演を開催 ・横浜国大名誉教授関根和喜氏による石油タンクの検査について特別講演を開催 ・神奈川 NDT 技術交流会との共催で, (株)東京エネシス総合技術センターを会場として TOFD 探傷技術講習会を開催 ・新規事業の講習会(後の検査テクノ談話室)が開催された 	<ul style="list-style-type: none"> ・学術組織再編(分科会と特別研究委員会を再編) ・大阪分室を西日本支援センターに改称 ・亀有センターから瑞江センターに移転 ・協会機関誌のカラー化 ・非線形超音波研究会発足 ・日本非破壊検査工業会がコンクリート構造物の配筋探査技術者資格認証制度開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国製餃子から農薬検出 ・野島崎沖でイージス艦「あたご」と漁船の衝突事故 ・公益法人改革に関する「公益法人改革三法」施行 ・南部陽一郎氏, 益川敏英氏, 小林誠氏, 下村脩氏がノーベル賞を受賞
H21 (2009 年)	<p>会長:藤盛紀明, 副会長:三戸茂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JSNDI が探傷器メーカーに発注した NDI 仕様の探傷器が認証試験で適用されることになった。探傷器の特長について, 説明とデモを実施 ・検査テクノ談話室は道路橋の UT 及び浸透探傷試験の 2 テーマを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・JSNDI 仕様デジタル探傷器の講習会及び資格試験への移行を公表 ・NDIS 0604 赤外線サーモグラフィ技術者の資格及び認証制定 ・イメージキャラクター「ノンディ」登場 ・JIS Z 2305 と ACCP 資格取得制度について, ASNT と合意書締 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 45 回衆議院議員選挙で民主党政権発足 ・裁判員制度がスタート ・事業仕分けが話題となる

		結 ・非破壊試験技術者登録件数 7 万件を超える ・日本溶接協会創立 60 周年式典	
H22 (2010 年)	会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉 ・東京工業大学教授廣瀬壮一氏による超音波伝搬シミュレーションに関する講演 ・アレイ探傷に関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノリサーチにて実施	・学術再編に伴う会員登録事項の変更開始 ・技量認定・認証制度 40 周年 ・電界計測に基づく非破壊評価応用研究会発足	・小惑星探査機「はやぶさ」帰還 ・地上アナログから地デジに移行 ・羽田D滑走路供用開始
H23 (2011 年)	会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉 ・フェーズドアレイ法の現状と規格案について, 富山大学教授三原氏の解説及びアレイ装置メーカー4社の協力で展示を実施 ・創立 30 周年記念行事を開催	・JSNDI/ACCP サプリメント試験開始 ・東日本大震災により, 関東, 東北地区の春期一次試験延期 ・第 68 通常総会において, 一般社団法人への移行が承認された日本エルピーガスプラント協会創立 50 周年 ・鉄骨建設業協会創立30周年 ・非破壊試験技術者登録件数 8 万件を超える	・全国各地で鳥インフルエンザの感染 ・3.11 東北地方太平洋沖地震発生(東日本大震災) ・福島原発水素爆発
H24 (2012 年)	会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉 ・「東日本大震災からの復興を目指して」震災後の街づくりについて藤盛紀明会長の特別講演・守井隆史氏による「厚鋼板と超音波探傷の因縁」で, 製鉄・製鋼から制御圧延まで, 最新の製鋼技術について講演	・小中学生を対象としたイベント「ヒハカイ星からやってきたノンディ」市川市の千葉県現代産業科学館にて開催 ・EN 473 と ISO 9712 整合化に伴う JIS Z 2305 改正に伴う説明会の開催 ・創立 60 周年記念式典の開催	・東京スカイツリー開業 ・日本で金環日食 ・関西電力大飯原発再稼働 ・原子力規制委員会発足 ・東京駅丸の内駅舎改修 ・山中伸弥氏ノーベル賞を受賞
H25 (2013 年)	会長:藤盛紀明, 副会長:石井泉	・中部支部事務所を移転 ・東京地区の新センターを亀戸の立花アネックスビルに設置 ・秋季講演大会(広島)にて改正 JIS Z 2305(2001→2013)の開始時期を説明	・J-PARC で放射性同位体漏洩事故が発生 ・2020 年五輪の開催地が東京に決定
H26 (2014 年)	会長:藤盛紀明, 副会長:中田裕之 ・名古屋工業大学名誉教授川嶋紘一郎氏による非線形超音波(高調波)法の講演	・JIS Z 2316-1:2014「非破壊試験-渦電流試験-第 1 部~第 4 部」(制定) ・東京本部事務所を秋葉原から亀	・東京駅開業 100 周年 ・赤崎勇氏, 天野浩氏, 村修二氏, ノーベル物理学賞受賞

		戸に移転(MBR→立花アネックス) ・「春季講演大会」を「非破壊検査総合シンポジウム」に名称変更	・はやぶさ 2 打ち上げ ・消費税 8%にアップ
H27 (2015年)	会長:藤盛紀明, 副会長:中田裕之 ・宇宙航空研究開発機構 松嶋正道氏による複合材料の特質と非破壊評価に関する講演 ・トモグラフィ・SAFT に関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノリサーチにて実施	・NDIS 1204:2014「工業用 X線フィルムの寸法」の制定 ・東北支部創立 30 周年記念行事を開催仙台サンプラザ ・大阪堺筋ビルを大阪の新センターに決定 大阪堺筋ビル5階:呼称「堺筋センター」 ・「特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」及び「一般社団法人日本非破壊検査協会特定個人情報取扱規則」の制定	・北陸新幹線開業 ・選挙権年齢が 18 歳に引き下げ ・ラグビー日本代表が活躍 ・大村智氏が生理学・医学, 梶田隆章氏が物理学でノーベル賞を受賞 ・日本郵政グループが上場 ・金星探査機「あかつき」が金星周回軌道に投入
H28 (2016年)	会長:小井戸純司, 副会長:森文彦 ・日本大学生産工学部 小井戸純司氏による電磁気を利用した非破壊試験に関する講演 ・インフラ調査士 資格認証制度に関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノリサーチにて実施 ・藤盛会長, 立川事務局長が退任 ・千葉県産業支援技術研究所材料技術室長を事務局長の持ち職とし, 石川事務局長が就任	・サーモグラフィに基づく機械状態監視診断技術者(サーモグラフィ)の認証制度を開始 ・NDIS 3435:2015「コンクリートの非破壊試験—鉄筋平面位置及びかぶり厚さの試験方法の種類とその選択」を制定 ・ISO 18436-7 機械状態監視診断技術者(サーモグラフィ)資格試験を開始 ・関西支部創立 60 周年記念式典開催	・マイナンバーの運用開始 ・民主党解散 ・北海道新幹線開業 ・8月11日が「山の日」として祝日となる ・大隅良典氏がノーベル生理学・医学賞受賞 ・113 番目の元素の名前がニホニウムに決定 ・高速増殖原型炉もんじゅの廃炉決定
H29 (2017年)	会長:小井戸純司, 副会長:森文彦 ・宇宙科学研究所 津田雄一氏による太陽系探査技術に関する講演 ・検査テクノ談話室で見学会を実施	・JIS Z 2305:2013 による認証制度が本格始動 ・JIS Z 2306「放射線透過試験用透過度計」の原案作成団体が(一社)軽金属溶接協会から JSNDI に移管 ・米国非破壊試験協会(ASNT: ACCP 資格)と日本非破壊検査協会(JSNDI:JIS Z 2305 資格)の非破壊試験技術者資格の相互承認協定締結	・プロ棋士の加藤一二三九段が現役引退を表明。また藤井聡太 四段が 29 連勝を達成。 ・カズオ・イシグロ氏がノーベル文学賞を受賞
H30 (2018年)	会長:小井戸純司, 副会長:根本正志 ・電気通信大学 教授 庄野逸氏によ	・NDIS 資格制度から JIS Z 2305 資格制度への移行を決定	・千葉駅 駅ビル全面開業 ・平昌冬季五輪で冬季過

	<p>るディープラーニングを用いた医用画像識別に関する講演</p> <p>・デジタルラジオグラフィに関する検査テクノ談話室を(株)日鐵テクノロジーにて実施</p>	<p>・NDIS 0604(赤外線サーモグラフィ試験:TT)</p> <p>・NDIS 0605(漏れ試験:LT)</p> <p>・NDIS 2431:2018「圧縮水素スタンド用鋼製蓄圧器の超音波探傷試験方法」制定</p> <p>・日本非破壊検査協会規格の制定</p> <p>・NDIS 2432:2018「角形鋼管溶接角部の超音波探傷試験方法」</p> <p>・NDIS 2433:2018「裏当て金付完全溶込み溶接 T 継手のルート部からのエコー判別方法」</p> <p>・北海道胆振地方を震源とする地震の影響により 9 月実施(千歳・札幌地区)予定の秋期再認証試験の振替実施</p> <p>・JIS Z 2345-「超音波探傷試験用標準試験片 1 部~4 部(制定)」</p>	<p>去最多13個のメダル獲得</p> <p>・探査機「はやぶさ 2」の探査ロボットがリュウグウに着陸</p> <p>・東京豊洲市場が開場</p> <p>・本庶佑氏がノーベル生理学・医学賞受賞</p>
H31-R1 (2019年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <p>・事務局長に材料技術室長 篠田清が就任</p> <p>・東芝電力検査サービス株式会社 唐沢博一氏によるポータブル 3D 超音波検査装置の講演</p>	<p>・研究委員会の発足</p> <p>・「コンクリートの含水率に関する試験方法研究委員会」(鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門)</p> <p>・研究会の発足</p> <p>・「先進超音波計測に関する萌芽技術研究会」</p> <p>・「$\cos\alpha$ 法及び二次元検出器による X 線応力測定法研究会」</p> <p>・認定・認証事業 50 周年記念式典開催(於 神田学士会館)</p>	<p>・はやぶさ 2 がリュウグウに着陸</p> <p>・元号改定 平成から令和へ</p> <p>・キログラムをはじめとした SI 定義改定</p> <p>・令和元年房総半島台風発生</p> <p>・消費税が一部 10%にアップ</p> <p>・吉野彰氏がノーベル化学賞受賞</p> <p>・首里城焼失</p>
R2 (2020年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <p>・新型コロナウイルス(COVID-19)まん延防止のため、各事業を自粛</p> <p>・UT 実技試験対策講習会は、感染防止対策を徹底して開催</p>	<p>・「新型コロナウイルス(COVID-19)への本会の対応について」第1報、第2報を本会ホームページに公示</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言の発出により 4 月から 6 月までの講習会を全面中止</p> <p>・新型コロナウイルスのため「非破壊検査総合シンポジウム」を中止</p>	<p>・地質年代のひとつに「チバニアン」と命名</p> <p>・高輪ゲートウェイ駅(山手線/京浜東北線)開業</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令</p> <p>・虎ノ門ヒルズ駅(日比谷線)開業</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・日本非破壊検査協会規格の制定 ・NDIS 3436-1:2020「コンクリートの非破壊試験」第I部～第5部(制定) ・秋季講演大会(於 名古屋)をZoomによる初のオンライン講演で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・としまえん閉園
R3 (2021年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス(COVID-19)まん延防止のため, 各事業を自粛 ・UT 実技試験対策講習会は, 感染防止対策を徹底して開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・「緊急事態宣言の再発出を受けた本会の新型コロナウイルス感染拡大防止への対応について」第6報、第7報を本会ホームページに公示 ・アジア・太平洋非破壊試験連盟(APFNDT)のExecutive Committee(AEC)会議をオンライン開催 ・四国支部の設立 ・JISの制定報告 ・JIS Z 2359:2021「ひずみゲージ試験通則」 ・日本非破壊検査協会規格の制定 ・NDIS2002:2021「フェーズドアレイ超音波探傷試験用語」 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪開催 過去最多58個のメダル獲得 ・真鍋淑郎氏がノーベル物理学賞受賞 ・新五百円硬貨 発行 ・大谷翔平氏が米大リーグのMVP受賞
R4 (2022年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局長に材料技術室長 細谷昌裕が就任 ・新型コロナウイルス(COVID-19)まん延防止のため, 各事業を自粛 ・MT/PT 及び UT 実技試験対策講習会は, 感染防止対策を徹底して開催 ・創立40周年記念式典を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・JSNDI 創立70周年 ・JSNDI 創立70周年記念ロゴ(2種類)を作成 ・JSNDI 創立70周年記念事業-マラソン方式- ・非破壊検査総合シンポジウム 特別講演を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・北京冬季五輪で冬季過去最多18個のメダル獲得 ・成人年齢が18歳に引き下げ ・安倍晋三元首相が応援演説中に遭難 ・エリザベス英国女王逝去 ・1ドル150円超え
R5 (2023年)	<p>会長:小井戸純司, 副会長:山田満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年記念誌発行 		

編集後記



事務局長 細谷昌裕

昨年 11 月に 40 周年記念式典、今年は記念誌の発行と、大忙しの毎日でした。ご協力いただいた研究会会員の皆様、40 周年記念事業 WG の皆様及び事務局のメンバーに感謝いたします。記念誌を編集することにより、事務局一同、改めて会の歴史の重さを認識した次第です。

当研究会は 40 年と永きに渡り活動を行ってきましたが、今後の会の運営には会員の皆様の積極的なご参加が不可欠です。「研究会」のまま継続できるのか、あるいは変化して発展をめざすのか、皆さんと考えていきたいと思ひます。

事務局の一員として責を担い、歴史あるこの研究会記念誌が無事発行でき、またお手元にお届けすることができましたことに感謝とともに安堵しています。発行に際し、原稿を寄せてくださいました皆様に心より御礼申し上げます。この発行に際し、より良いものを作成しようと、(手前味噌ながら…) 会長及び事務局長の指示のもと、この編集委員及び事務局で進められたことに感謝申し上げます。これまでの歴史と重みのある研究会活動の姿がお伝えできれば大変嬉しく思います。



書記 吉田浩之

研究会の皆様、40 周年記念式典から記念誌の発行まで、ご協力いただきありがとうございます。研究会書記として 1 年目から、長い歴史を持つ研究会の 40 周年記念事業に携わることができ、大変光栄でございます。

50 年、60 年と研究会が続きますよう事務局の一員として、皆様のお役に立てるよう誠心誠意努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



書記 太田大貴

本誌を編集するなかで、「川向こうの会」から始まった千葉県非破壊検査研究会の 40 年の歴史を、写真や活動実績などから体感することができました。講演や各講習会の参加者数を見ると、非常に多くの方との縁によって活動が続いてきたのだと感じております。

記念誌の発行にあたってたくさんの人に御協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



書記 山本貴之

千葉県非破壊検査研究会 40周年記念誌

令和5年7月 発行

編集 千葉県非破壊検査研究会 40周年記念誌WG

編集委員 会長：小井戸純司 監事：守井隆史 幹事：立川克美, 高橋厚志, 高橋英司
事務局長：細谷昌裕, 書記：吉田浩之, 太田大貴, 山本貴之

発行者 千葉県非破壊検査研究会

〒263-0016 千葉県千葉市稲毛区天台6-13-1

千葉県産業支援技術研究所内

TEL：043-252-2106 FAX：043-254-655

印刷所 5 株式会社キョウシン

〒110-0003 東京都台東区根岸3-18-20 2F

TEL：03-6240-6655

転載・複製を禁ず
